ISSN 2187-1841

千代田区立日比谷図書文化館

文化財ニュース

11 Winter 2016

■ 日比谷図書文化館　開館5周年記念

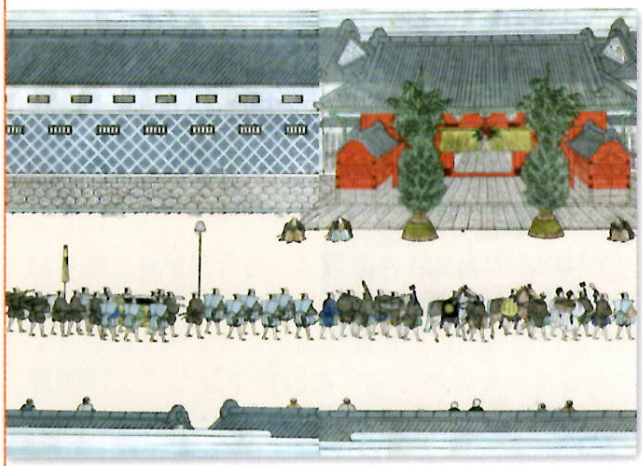
平成28年度文化財特別展「発掘された大名屋敷」開催　特集号

会期：平成28年12月5日（月）
～平成29年2月5日（日）
※年末年始（12月29日～1月3日）および第3月曜日は休館

時間：月～金曜　午前10時～午後8時
土曜　午前10時～午後7時
日曜・祝日　午前10時～午後5時

会場：千代田区立日比谷図書文化館
1階特別展示室

入場無料



『徳川盛世録』「紀州徳川家が城内紅葉山参詣行列図」
左手の門が福岡藩黒田家、右手が広島藩浅野家

特別展に関連して下記の講座を開催します。詳しくは、当館ホームページ・広報千代田でお知らせします。

関連講座（いずれも午後7：00～午後8：30）

★平成28年12月16日（金）「発掘された大名屋敷」
後藤宏樹（当館学芸員）

★平成29年1月11日（水）「有楽町一丁目遺跡が語る江戸時代初期大名屋敷の華やかさ」
波多野純氏（日本工業大学教授）

★平成29年1月18日（水）「江戸勤番武士の生活と実態」
岩淵令治氏（学習院女子大学教授）

まち歩き

★平成28年12月10日（土）午前10：00～午後4：00
千秋文庫（秋田藩佐竹家資料説明）/明治大学博物館（常設展見学）

Index

2-3		開館5周年記念特別展「発掘された大名屋敷」
4	収蔵庫から	三代歌川豊国『役者年中行事／役者見立八犬伝　原稿』
5	収蔵庫から	描かれた日比谷焼打事件
6	史跡散歩	明治時代の堀と石垣の改変「凱旋道路の設置」
7	こども体験教室	「江戸城と日比谷公園の歴史を勉強しよう！」について
8	常設展 ミニ展示	「クローズアップ千代田」のご案内

開館5周年記念特別展「発掘された大名屋敷」

江戸城郭内であった千代田区には、徳川御三家や幕政を担った譜代大名、有力外様大名の屋敷がありました。開館5周年を迎えるこの展示では、出土遺物のほか、図面や文献資料など屋敷に関わる資料を展示し、大名屋敷での暮らしぶりを紹介します。

Ⅰ．プロローグ・大名行列

大名の江戸参勤は、大名の幕府への服属を示す儀礼であり、慶長元年（1596）に藤堂高虎が弟正高を人質としたのが始まりといわれます。関ヶ原の合戦後に伊達政宗が桜田に屋敷を与えられ、細川、毛利、上杉、加藤といった有力外様大名の江戸屋敷拝領が続きました。元和元年（1615）の大坂の陣で豊臣家が滅亡すると隔年の参勤が定例化し、寛永12年(1635)の「武家諸法度」により諸大名の江戸参勤が制度化されます。こうして、江戸城下の約７割の土地が全国の大名が集住する武家の都市として飛躍的に拡大していくことになりました。

『徳川盛世録』「式日大手登城の図」には、大手門に向かう大名行列と整列して主人を待つ、大勢の従者が描かれています。

Ⅱ．大名屋敷の成立と展開

江戸初期の大名江戸屋敷は、金箔瓦が軒を飾るなど豪華絢爛な御殿が特徴でした。また、将軍を迎えるための御成門には華麗な彫刻に極彩色で飾られていました。その様子は、常設展示室の「江戸図屏風」（複製）からもうかがえます。

現在の丸の内は、江戸時代には大名小路と呼ばれ、江戸城郭内に位置していました。この地域の大名屋敷跡の出土遺物には、金箔に装飾された建築部材や金箔瓦、豪華な食器類がみられ、江戸の中心地に位置する屋敷であったことがうかがえます。

有楽町一丁目遺跡出土の江戸初期の陶磁器類

Ⅲ．大名屋敷の御殿と長屋の生活

全国の諸大名には、藩主が隔年で参勤し居住する上屋敷のほか、子息や隠居した前藩主の住居である中屋敷、郊外の庭園を主とする藩主別邸の下屋敷など、江戸に複数の屋敷が与えられていました。大きな藩では千名を超える家臣が居住したといいます。各藩の江戸での支出は藩財政の半数を超えることから、江戸の経済は全国の大名に支えられていたことになります。

千代田区は江戸城郭内にあることから、多くの大名屋敷跡が発掘されています。このうち、高松藩松平家上屋敷跡（飯田町遺跡）では御殿や庭園跡が発見され、国元で焼かれた理平焼などが出土しています。尾張藩麹町邸跡の家臣長屋の遺跡では、江戸中期のゴミ穴から藩士が食べたと思われる貝や魚骨、獣骨などが出土し、当時の食料事情を垣間見ることができます。こうした出土遺物は、江戸に暮らした殿様や勤番武士の生活の実態を示しています。

飯田町遺跡の御館跡や池跡

飯田町遺跡池跡出土遺物

紀州藩徳川家麹町邸跡（紀尾井町遺跡）の発掘調査

紀尾井町遺跡は、江戸時代の紀伊和歌山藩徳川家麹町邸の一画に当たり、これまで9地点の遺跡発掘調査を行ってきました。本号では特別展で紹介する東京ガーデンテラス紀尾井町の開発に伴う調査成果を紹介します。

■ 調査地点

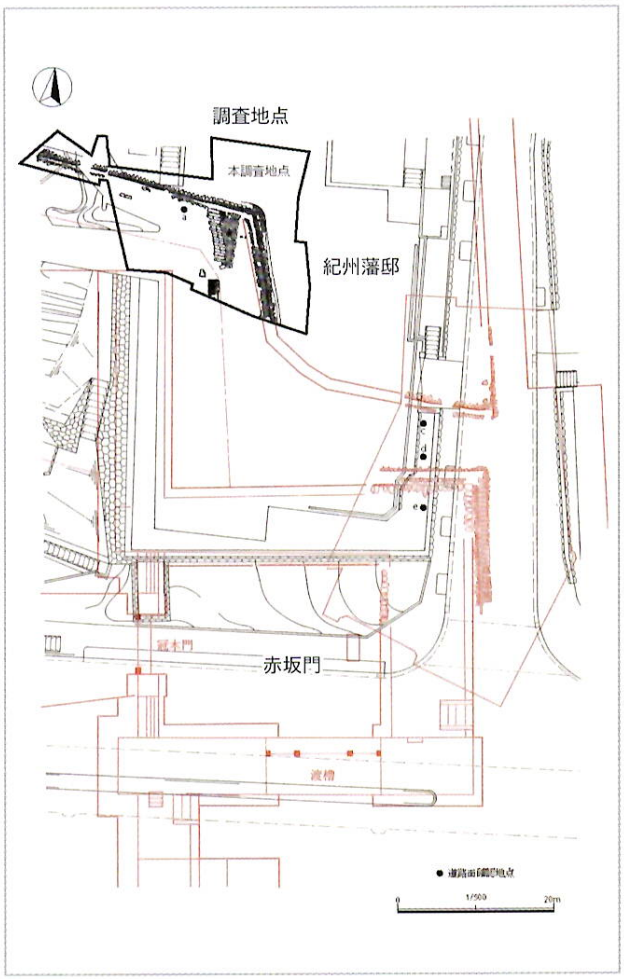
紀尾井町は、紀伊和歌山藩麹町邸、尾張名古屋藩、近江彦根藩井伊家上屋敷の3家の各一字をとって明治5年に名付けられました。このうち調査地点は紀州藩麹町邸南端の表御殿の石組下水と南側の赤坂門石垣にあたります。

■ 赤坂御門跡の枡形石垣

赤坂門の遺構は、枡形石垣の一部と下水溝が発見されました。石垣石の小口には「裏銭」などの刻印がありました。裏銭紋は、福岡藩黒田家の裏家紋であるため、この石垣は同家が築いたものであることが確認されました。

赤坂門跡出土の黒田家家紋の刻印

紀州藩麹町邸跡の石組



紀州藩麹町邸跡調査位置図

■ 紀州藩麹町邸跡

発見された遺構は、屋敷南辺を巡る石組下水溝と御殿内の井戸跡です。下水溝は、幅約1.8m（1間）で、屋敷側では高さ1.95mの石積みとなります。屋敷側（北面）の石組は、丁寧な積み方で5段の石が積まれ、南面は2～3段の低いもので、雑然とした配置となります。北面の石組上には表長屋の建物がのるために丁寧な作りであったと考えられます。

井戸跡は、桶を重ねて10m以上掘り抜いた深いものでした。

なお、発見された石組の一部は、同じ場所に石組技術を理解できるように再現してあります。

（後藤宏樹）

収蔵庫から

三代歌川豊国『役者年中行事／役者見立八犬伝　原稿』

三代歌川豊国（初名は国貞・1786～1864）は、役者絵と美人画という浮世絵の二大ジャンルを得意として、歴代の浮世絵師のなかでも最も多くの作品を描いたと言われます。どのように三代豊国が浮世絵を制作したのか、その様子を垣間見られるような資料が千代田区教育委員会に寄贈・寄託されています。詳細については、千代田区文化財調査報告書『ある商家の軌跡一紀伊国屋三谷家資料調査報告書一』1・2で報告しています。

万治三年（1660）に神田塗師町（現在の鍛冶町二丁目）で金物問屋を創業した紀伊国屋三谷家に関する資料のなかには、紀伊国屋の歴史を伝える記録だけでなく、三谷家が蒐集した美術作品もあります。

とりわけ、八代目長三郎（1819～87）は文化活動に熱心で膨大な浮世絵を蒐集しました。さらに、彼は三代豊国と大変親密な間柄にあり、錦昇堂という版元を営んだ恵比須屋庄七に資金援助をして浮世絵の出版に協力していたことが知られています。寄託資料のなかには11冊の画帖があり、それには絵師による下絵や草稿といった原稿を貼り込んだものが8冊あります。

ここに挙げているのは、曲亭馬琴の読本『南総里見八犬伝』の登場人物を役者に見立てたものの一図で、三代目沢村宗十郎による里見治部大輔義実と、五代目市川団蔵による杉倉木曽介氏元が三浦浜で龍に遭遇してそれを吉兆であるとする場面です。

左右の欄外には墨書きで次のようにあります。まず、右の方には「ぬし町様へ申上候。古人など多く御座候間、ぜひほり竹へ御出しなされ可被下候」と書かれています。ここでいう「ぬし町様」は八代目長三郎で、「ほり竹」は浮世絵の版木を彫る彫師・横川彫竹です。三代豊国は彫りの高度な技術で名高い彫竹をこの絵の彫師に起用してほしいと願い出ています。左の方は彫竹宛ての書き入れで、「ほり竹様へ申上候。此おやじ向て右のびん（鬢）の通りに左りも白毛に御ほり可被下候。まゆげもこれで白毛に御ほり可被下候。ほそくすじを御たのみ申上候」とあります。三代豊国は髪やまゆげなど、難易度の高い細い毛の彫りを彫竹に頼み込んでいます。三代豊国は彫師の技術がいかに自分の絵の出来を左右するか、よく理解していたのでしょう。

浮世絵はつい葛飾北斎や喜多川歌麿といった絵師の名前で鑑賞されがちですが、1枚の浮世絵を作るためには、版木を彫る彫師、それを摺る摺師、浮世絵の企画や販売を担う版元、刊行を援助する人々と多くの手を経て世に出ます。今回紹介したこれらの画帖は、浮世絵ができるまでの流れをうかがい知ることができる大変貴重な資料です。三谷家資料を紐解くことによって、浮世絵を作り、その出版を支え、愛好した人々の様子をより身近に感じることができるでしょう。（井上海）

三代歌川豊国筆『役者年中行事／役者見立八犬伝　原稿』のうち1図

収蔵庫から

描かれた日比谷焼打事件

日比谷焼打事件関連絵日記
和紙に描かれた文字・イラストは２枚にわたっている。これ以外にも千太郎氏は、日露戦争の戦局や戦勝後の凱旋の様子なども記録している。当時の人々の日露戦争イメージを伝える貴重な資料である。

ここに、不思議なイラストの描かれた紙片があります。一体これはどのようなものでしょうか。

画面の左には「日比谷公園国民大会」の文字があり、またイラストの上には横書きで「明治三十八年八月」と書かれています。そのため日露戦争の講和をめぐって発生した日比谷焼打事件について記したものだと分かります。描いたのは、花房町（現在の外神田1丁目）で炭問屋「内田屋」を経営していた江畑家の千太郎氏です。紙は2枚にわたり、自身が見聞した事件の様子が綴られています。

明治37年（1904年）2月に始まった日露戦争では、旅順、奉天などでの陸戦、対馬沖で行われた日本海海戦などで日本が勝利します。国内では戦勝報道のたびに提灯行列や祝賀会が開催されました。

明治38年8月からアメリカのポーツマスで講和会議が開かれますが、ロシアからの賠償金獲得が難しいという報が伝わると、講和反対の動きが起こりました。講和条約調印の9月5日、日比谷公園では講和反対の国民大会が開かれます。政府は集会禁止命令を出しますが、公園には約3万人が集結し、警官と衝突しました。千太郎氏はその様子を以下のように記録しています。

明治三十八年九月、講和成立より市府県村ニ於テ其激動一ト方ならず、遂に九月五日東京日比谷公園ニ於テ国民大会ヲ開き…遂ニ内閣総理大臣邸、内務大臣官宅、警視庁ヲ襲ひ、東京市各警察署を焼き…又破壊するニ至り無警察の有様となり、街鉄電車十八両を焼き…

また、下谷の交番が放火され燃える様子を御成道から眺めた様子も描かれます。これは、千太郎氏の暮らす花房町付近から眺めた光景に違いなく、混乱する市内の状況をとらえた記録として貴重です。

改めて描かれたイラストを眺めてみましょう。青い制服を着て、怒った様子の2名の人物は警察官を表しています。フロックコートに山高帽、手を頭に載せてションボリした紳士はおそらく小村寿太郎でしょう。小村は当時の外務大臣で、講和会議の全権を務めていました。その後ろには、ロシア帽をかぶった人物が舌を出しながら、償金と書かれた鞄を持って逃げていきます。警察官は「オマエが償金を取り逃がしたせいで暴動になったではないか！」と小村全権に怒っているのです。

当時、日本の兵力・弾薬は限界をむかえており、もはや戦争を継続することができる状況ではありませんでした。一方ロシアも、血の日曜日事件以来、国内は不安定な世情にあり、明治38年5月頃から、双方が講和を模索する段階に達していました。その中で、小村全権は苦労を重ねて、有利な条件での条約締結を達成しましたが、賠償金は得られませんでした。度重なる戦勝報道によって多額の賠償金を期待していた国民は、講和条約の内容に失望したという事情があったのです。ここに描かれたイラストには、当時の人々が日露戦争と講和条約に抱いたイメージが投影されています。（長谷川怜）

明治時代の堀と石垣の改変「凱旋道路の設置」

明治37～38年（1904～05）の日露戦争は、東京の都市計画にも影響を与えています。戦争ののちに行われた行事に伴って、旧江戸城の内堀に手が加えられた様子を紹介します。

日露戦争中、麹町区内でもたびたび祝賀行事が行われます。

馬場先門・外桜田門での事故

明治37年（1904）5月8日、第1回戦勝祝賀会で行われた提灯行列では、東京市庁（現、東京国際フォーラム）を通過した行列が馬場先門から二重橋に向いました。行列が、橋の手前でなく、渡ったところで通行規制され、人々が殺到し20名の死者を出す惨事となりました（『東京朝日新聞』明治37年5月10日）。さらに、馬場先門から入れないと知った群集が外桜田門に向い、やはり負傷者を出しました。

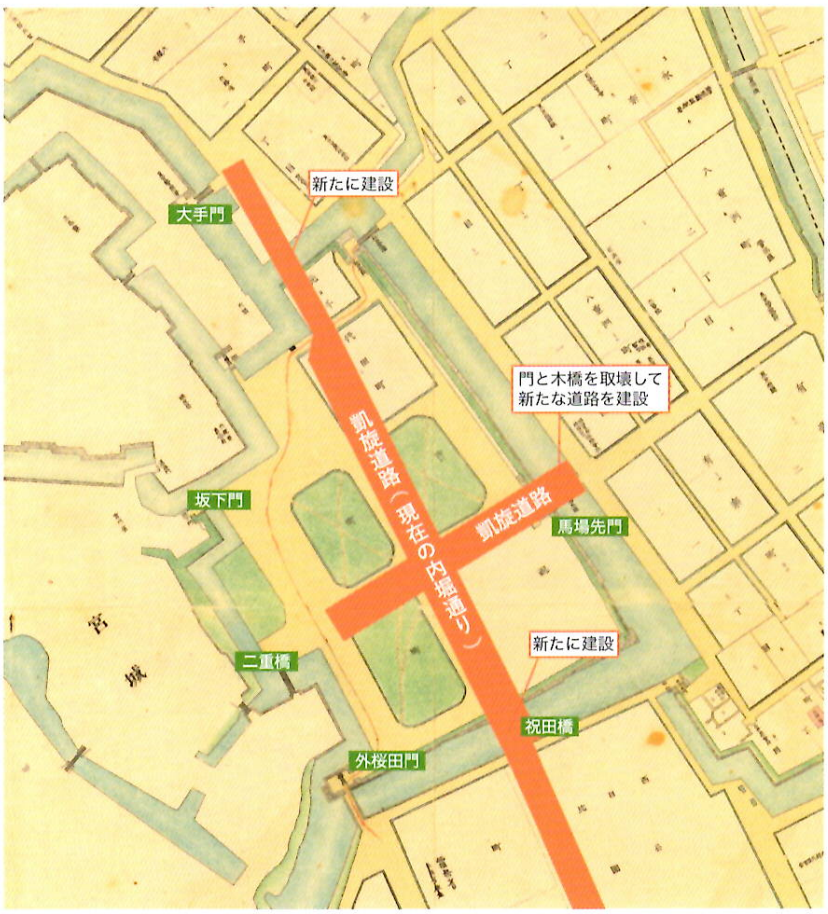
これは、皇居外苑沿いの枡形門（ますがたもん）が、明治30年代の時点でも残されていたためで、その後、馬場先門の枡形石垣と橋は撤去され、堀も埋められ40間（約72m）の幅を持つ道路が建設されます。

皇居外苑貫通道路の整備

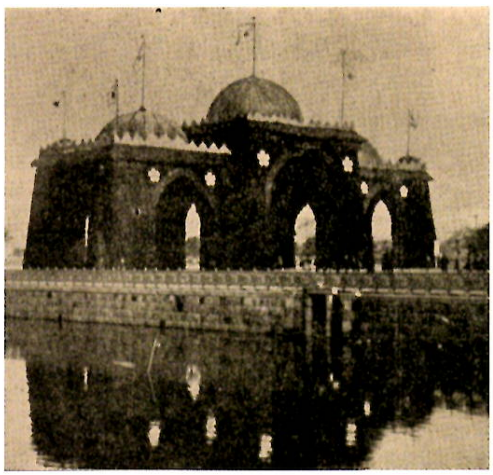
この馬場先門の道路拡幅に合わせて、大手門から日比谷公園の西側を抜けて愛宕（あたご）下に通じる道路（現、祝田（いわいだ）通り）も拡幅されます。

大手門から和田倉門内へ入る道と、馬場先門内から日比谷公園側に出る道が、堀を埋めたてて、20間（約36m）の幅で建設され、明治39年（1906）4月20日に「凱旋（がいせん）道路」として竣工しました（日比谷濠の西側も、「凱旋濠」と命名）。

「凱旋道路」完成後の明治39年（1906）4月25日には馬場先門内と祝田橋に凱旋門が建設されました。なお、日比谷公園で祝賀会が開催されますが、焼打ち事件も起きます。（高木知己）



凱旋道路が建設される前の皇居外苑（明治28年）



馬場先門に建設された凱旋門

現在の馬場先門

こども体験教室

「江戸城と日比谷公園の歴史を勉強しよう！」について

当館が所蔵する『徳川盛世録』や『東都歳事記』を素材としたオリジナル立版古。

立版古作成中の様子。みんな真剣に取り組んでいます。

日比谷公園の鶴の噴水を見学中。大正時代の絵葉書に写った噴水と現状を見比べています。

日比谷公園の三笠山で記念撮影。ここからは大手町の高層ビルを眺めることができました。

桜田門では、江戸城建設の歴史や石垣についてなど様々な解説を行いました。

千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室では、8月27日（土）に、こども体験教室「江戸城と日比谷公園の歴史を勉強しよう！」を開催しました。

今回の企画は、区内在住の小学4年生～ 6年生を対象とし、学芸員の解説を聞きながら江戸城内および日比谷公園内をめぐるというものでした。

当日はあいにく雨天で、区内に雷注意報が発令されていたため予定を一部変更し、まず館内で常設展の見学と「立版古（たてばんこ）」作りをしました。常設展示室では、区内で発見された埋蔵文化財も特別に見てもらい、普段生活している場所の地面の下に歴史が埋まっていることを説明しました。

立版古とは、江戸時代～明治時代にかけて作られた子ども向けのペーパークラフトのことです。紙を切って組み立てると、立体的な世界が楽しめます。かなり細かい部分もありましたが、器用にハサミを使って上手に組み立てられました。

昼食後、日比谷公園内と桜田門までのウォーキングを行いました。日比谷公園は明治36年（1903）に開園した日本初の西洋式公園で、園内には噴水や銅像、馬の水飲み場など様々なものがあります。それぞれの場所をめぐりながら解説をしました。

江戸城の入口のひとつである桜田門は、寛文3年（1663）に現在の形に再建されたものが基となっていますが、幕末に起きた桜田門外の変の現場として有名です。「桜田門で暗殺されたのは？」と聞いてみたところ「井伊直弼！」という答えが子どもたちから返ってきました。

子どもたちからは「歴史が千代田区にもたくさんつまっていることを知った」、「江戸城が見られて楽しかった」、「日比谷公園に初めてきたけど、三笠山や噴水など歴史のある公園だったので面白かった」などの感想がありました。自分の足で歩き、目で見ることで千代田区の歴史を実体験することができたのではないでしょうか。

文化財事務室では、今後も千代田区の魅力を伝え、地域を知るための様々な企画を行う予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

（長谷川怜）

常設展 ミニ展示

「クローズアップ千代田」のご案内

当館の常設展では、古代から現代にいたる千代田区の歴史や文化について、広く紹介しています。中世の梵鐘（ぼんしょう）や江戸城石垣を固定していた金具、葵の紋の付いた瓦、江戸時代の水道管（木樋（もくひ））といった埋蔵文化財から、江戸や明治の錦絵、映画館のポスターなど多様な展示品があります。

とはいえ、これらの展示品は当館所蔵資料のごく一部で、とてもその全てをお見せすることはできません。そこで、今年度より「クローズアップ千代田」と名付けたミニ展示を行っています。ケース1つ分の小さな展示ですが、1か月～2か月ごとに様々な資料をご紹介します。展示計画は右表のとおりです。本展示を通じて、千代田区への興味や関心をより一層膨らませて頂きたいと思います。

日比谷図書文化館にお越しの際は、ぜひ常設展示室にお寄り下さい。　（長谷川怜）

「その1：戦争の時代を知る―戦時下千代田の資料」の展示風景。戦時中に千代田区で使われていた道具や印刷物、その他関連資料を並べました。

都営地下鉄 ●三田線―「内幸町駅」徒歩3分
東京メトロ ●千代田線
●日比谷線 ―「霞ヶ関駅」徒歩5分
●丸ノ内線

駐車場　当施設に駐車場はありません。

クローズアップ千代田　平成28年度予定	
その❶	戦争の時代を知る ― 戦時下千代田の資料：【終了】
その❷	千代田を走った聖火 1964 東京オリンピックの熱狂：【終了】
その❸	北斎の読本挿絵：【終了】
その❹	**ランプいろいろ** 11月1日～12月4日 今はほとんど使われなくなった古いランプを紹介。カーバイドランプなど一見しただけでは使い方の分からないランプは操作方法もパネルで解説。
その❺	**江戸・明治の道具** 12月5日～1月22日 江戸時代から明治時代にかけて使われていた煙草盆や火鉢など、むかしの道具を展示。
その❻	**発掘された江戸の覆きもの** 1月23日～2月19日 区内の江戸時代の遺跡から発掘された、わらじ、下駄、草履を紹介。
その❼	**おもしろい汽車土瓶** 2月21日～3月12日 かつて鉄道旅行の御伴といえば駅弁に汽車土瓶だった。発掘された汽車土瓶をたくさん並べ、近代日本の鉄道について、また土瓶に書かれた文字について解説。

『釈迦御一代記図会（しゃかごいちだいきずえ）』巻六
山田意斎 編／葛飾北斎 画
弘化2年（1845）刊
「その3：北斎の読本挿絵」に展示した読本。釈迦の生涯を著したもので、釈迦族滅亡の一場面。86歳の北斎が創意工夫に富んだ新しい表現で挿絵を描きました。

開館時間　月～金　午前10：00～午後10：00
土　午前10：00～午後 7：00
日・祝　午前10：00～午後 5：00
文化財事務室　月～金　午前 8：30～午後 5：15
※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。
休館日　毎月第3月曜日
年末年始（12月29日～1月3日）
特別整理期間

文化財ニュース　第11号　（2,000部）
発行日　平成28年11月18日
編集・発行　千代田区立日比谷図書文化館　文化財事務室
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361
HP:http://hibiyal.jp/bunkazai/index.html
e-mail:bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp
印刷　能登印刷株式会社